

## 2024年度 日本アーカイブズ学会総会議事録

### 開催状況

- 日時 2024年4月20日（土）13時～14時30分
- 場所等 学習院大学南3号館201教室、およびWeb会議システム「Zoom」によるハイブリッドで開催した。
- 備考 総会運営規程第7条第2項に定める採決の方法は拍手とし、オンライン参加者はZoomの「リアクション」機能による意思表示をもって拍手とみなした。

### 進行および議事

- 1 開会宣言（司会：杉浦秀典委員、以下司会をつとめる）
- 2 会長挨拶（保坂裕興会長）
- 3 議長選出
  - ・議長立候補者なし。
  - ・司会より早川和宏会員を議長に推薦した。これが承認され、早川氏が議長に選出された。以下の議事は議長のもとに行われた。
- 4 定足数確認と総会成立
  - ・正会員は472名。  
定足数はその10分の1以上であるので48名であることを確認した。
  - ・現在の出席正会員54名、委任状提出正会員117名、オンライン出席正会員17名。  
議長が定足数を満たしていることを確認し、総会の成立を宣言した。
  - ・書記選出  
議長が手倉森結南・湯地ふたば両会員を書記に指名した。
- 5 議事
  - (1) 2023年度事業報告（宮間純一事務局長、松崎裕子委員）
  - (2) 2023年度決算（鈴木直樹委員）
  - (3) 2023年度会計監査報告（高木秀彰監事）
    - ・上記（1）～（3）は、総会資料（資料1）・（資料2）・（資料3）により一括して報告された。
    - ・（3）については、高木監事より適切に執行されている旨が報告された。

### 【質疑応答】

（質疑）古賀崇会員

2023年度決算（案）の「1 収入の部」の会費に関して、決算額が予算額を下回っているが、未納問題や督促についての取り組みがあればご教示いただきたい。

（応答）宮間事務局長

会費に関しては、毎年5月に請求書を送付し、未納者に対しては年末から督促を開始している。例年、約9割の会員が会費を納付している。

- ・会場の拍手とZoomの「リアクション」機能による意思表示をもって賛成多数を議長が確認し、承認された。

(4) 2024年度事業計画（宮間事務局長）

(5) 2024年度予算（鈴木委員）

- ・上記（4）～（5）は、総会資料（資料4）・（資料5）により一括して提案された。

#### 【質疑応答】

（質疑）森本祥子会員

##### ①研究集会について

前年度、講演者の体調不良により中止となったオンラインでの研究集会について、再び今年度開催を行う予定はあるのか。もしも可能であれば、開催について検討をしていただきたい。

##### ②予算について

- ・「印刷製本費」について、前年度は予算を下回る決算であったにもかかわらず、本年度の予算が昨年度の決算額に対して、大幅に増額計上されている理由を教えてください。
- ・「事務費」について、前年度決算額が予算を大幅に下回る14万円ほどであったにもかかわらず、本年度は昨年度予算から増額して計上されている理由について説明いただきたい。

（応答）

##### 1) 平野泉委員

現在も講演者が体調不良で療養中のため、本年度の開催は難しいと判断した。また通訳に15万円程の費用がかかるが、この予算を本年度は計上していないため、本年度の開催は難しい。次年度以降の状況によっては開催が可能となることも考えられる。

##### 2) 宮間事務局長

- ・「印刷製本費」に関して、会誌および総会資料の印刷費が高騰していることから、前年度予算の150万円から若干減額した140万円を計上した。また本年度に不足が生じることがないように多めに計上を行った。
- ・「事務費」に関しては、会誌および総会資料を発行している会社の郵送方法が変更され、費用が増加しているため、予算を多めに計上した。

→その後、森本会員より、予算（案）の説明の際に、金額が大きく動く項目や、前年度と比較してなぜこのような金額になったのか疑問を抱かせる項目については、初めから説明を加えていただけると安心できるので、是非お願いしたいとの要望があった。

（質疑）櫛原直樹会員

日本アーカイブズ学会の登録アーキビスト制度と国立公文書館の認証アーキビスト制度について、今後、両制度を併存して続けていくのか、学会内部で議論されているところがあれば教えてください。

（応答）太田富康副会長

委員会として方向性が出ているわけではない。「登録アーキビスト」担当内では様々な意見が出ているが、引き続き状況を見極めながら検討していきたい。

→その後、櫛原会員より「登録アーキビスト」と「認証アーキビスト」の違いについて再度質問があり、太田副会長から登録アーキビストの条件として、学会に所属し研究活動を行っているという大前提があると説明された。

(質疑) 松岡資明会員

2028年に新たな国立公文書館が開館する予定であるが、このことが世間から十分に注目されていないと感じる。この計画は、ただ館が出来るだけではなく、これまでは紙媒体で作成されてきた記録がデジタル化されることを含め1つの画期となる出来事であると感じる。よって世間に広く認知されることは重要であると考えてるので、学会20周年の事業などの中でこの点に触れていただきたい。

(応答) 保坂会長

ご要望を確かに受け止め、これを踏まえて検討したい。

- ・会場の拍手とZoomの「リアクション」機能による意思表示をもって賛成多数を議長が確認し、承認された。

(6) 役員改選

- ・保坂会長より役員選出規程に基づく経緯が報告され、総会資料(資料6)の役員改選案が提案された。(会長1名、副会長2名、委員30名、監事2名)
- ・会場の拍手とZoomの「リアクション」機能による意思表示をもって賛成多数を議長が確認し、承認された。

(7) その他

- ・会則第14条第1項第4号および総会運営規程第6条による、事前の会員からの提出議案はないことが確認された。

6 議事の終了

- ・議長が、すべての議事の終了を宣言した。

7 その他

(1) 2023年度認定登録アーキビスト(太田副会長)

- ・総会資料(資料7)に基づき、更新された10名、新たに認定された3名の紹介があった。新規認定者の浅井良亮氏・長嶋健太郎氏から挨拶があった。

8 閉会宣言(司会:杉浦委員)

以上

早川 和宏 